

(2) 千曲市の林業施策について

1. 民有林整備（H25 予算 4,546 千円）

千曲市では、国県の方針に即し「千曲市森林整備計画」を策定し事業を行っております。林業を取り巻く情勢が厳しい中で森林整備を推進していくには、国県による補助金を最大限活用させていただくとともに、多様な政策のなかで県にご協力いただきながら、地域の実情にあった施策を導入し、区有林・個人有林等の整備を図っていく必要があります。

また、市が事業主体ではない事業についても、県・森林組合・自治会・林業関係団体と連携をとりながら、事業が円滑に進むよう各種集会の参加や情報提供など、側面的な支援も行っております。

個人有林の所有状況は、ほとんどが 1ha 未満の零細な所有が多く、効率的な施業を行うための団地化を図る上での障害となっています。山林への関心が薄れる中で不在地主の存在や、世代交代の進展に伴い所有する山林の場所が分からない所有者も増加しており、境界だけでなく山林の位置すら特定できないケースもあります。

平成 20 年度より導入された「長野県森林づくり県民税（森林税）」が、本年度より更に 5 年間延長されたことを受け、市ではそれを活用した事業の推進に努めてまいります。

①地域で進める里山集約化事業（県[森林税]10/10）

里山における小規模個人有林、不在地主所有林等の森林整備を進めるため、地域が主体となった森林整備計画づくりや計画区域内の森林所有者からの施業同意を得るなど条件整備のための活動に対して助成するもの。

事業実施主体は区・自治会、その中に設置されている森林委員会などの森林関係の組織、森林所有者で構成する協議会、森林組合、林業事業体など

NPO 法人千曲の森

H20 年度 85.5ha H21 年度 25.0ha H22 年度 53.7ha H23 年度 55.0ha

H24 年度 50.0ha 合計 269.2ha H25 年度 46.7ha (700,500 円/@15,000) 予定

②森林づくり推進支援金活用事業補助金（県[森林税]10/10 以内）

市民による森林づくり推進支援金活用事業実施に要する経費に対し補助金を交付。

※森林づくり推進支援金

地域における住民の意向や実情に精通している市町村との連携により、きめ細かな森林づくり活動の取り組みを支援するため、市町村が独自性と創意工夫により事業展開するための経費に対して支援するもの。

①里山景観整備事業 15 件（区・自治会、営林組合等を対象） 900 千円

野生鳥獣被害防止の効果及び地域の景観向上が必要とされる山裾の荒廃地や過去 10 年間森林造成事業等の補助金の交付を受けていない山林などにおける竹林整備（概ね 0.1ha 以上）、下刈・除伐・保育間伐（概ね 0.5ha 以上）など必要とされる施業に対し補助。

対象者は

- ・ 林業経営者又は林業関係業種に従事しているもので構成された団体
- ・ 地域の森林、林業に関心があり、5 人以上の者が共同で事業を実践する目的を持って組織され、市長が適当と認める団体
- ・ 区、自治会などの自治会組織

補助額は、事業に要した労務費 1 人 1 日 6,000 円。

赤松伐採の場合は、ビニール被覆用の資材費も対象。1地区6万円を限度。

区・自治会、営林組合等

H20年度6団体3.8ha、H21年度11団体12.6ha、H22年度10団体16.8ha、H23年度12団体15.01ha
H24年度9団体14.3ha 合計48団体62.51ha H25年度12団体24.3ha/720,000円の予定

②協働による森林づくり事業（H24までは森林体験活動支援事業）

3件（一般市民及び小中高等学校の児童生徒を対象） 300千円

一般市民及び小中高等学校の児童生徒を対象とした森林づくり活動（植樹・育樹活動、測量・測樹、森林調査等）に対し補助。

事業に要した経費（食糧費及び3万円以上の備品は除く。）10/10以内。
ただし、1団体年10万円を限度。

H20年度2団体135人 H21年度3団体80人 H22年度3団体84人 H23年度4団体206人
H24年度3団体116人 合計17団体621人 H25年度2団体50人120,000円予定

③千曲市森林整備事業補助金（県[森林税]10/10以内）

千曲市に住所を有する個人及び営林組合等に対し、森林のもつ公益的機能の増進を図るため、山林所有者等が行う森林整備事業に要する経費に対し補助。

森林造成事業（国庫補助）に要した経費から国又は県の補助金を差し引いた額の10分の10以内を補助する嵩上げ補助。

長野森林組合

H20年度33.77ha H21年度89.57ha H22年度189.32ha H23年度87.74ha
H24年度132.00ha 合計532.40ha H25年度80.00ha/2,500,000円予定

④森林整備地域活動支援交付金（国1/2・県[森林税]1/4・市1/4）

持続的な森林経営及び計画的な間伐の実施を促進するために支援するもので、事業主体と市で協定を結んだ森林において、施業の集約化等の地域活動を実施した場合に交付金を交付。

森林経営計画作成促進 経営委託38,000円/ha 共同経営等8,000円/ha
施業集約化促進 30,000円/ha

長野森林組合

H23年度140.66ha（倉科地区・大田原地区） H24年度70.00ha（羽尾地区・力石地区）
H25年度30.00ha（森岡地地区）/240,000円（@8,000円）予定

森林経営計画作成促進 30/ha 240千円

2. 市有林管理（H25予算22,024千円）

千曲市の市有林のうち直営林は1,630haあり「千曲市森林整備計画」に基づき5年毎に施業計画を立て計画的な施業を行っています。木材資源として成熟期にある40年生～60年生の木が大半を占めており、間伐施業が中心となっています。平成21年度までは、市有林作業員を直接雇用し保育施業を行ってきましたが、その後は業者委託による搬出間伐を中心に施業を進めており、平成24年度からは市有林作業員を完全に廃止し業者委託のみとなりました。

市有林内の保安林については県の治山事業により施業を行っています。境界の確認および保守、林地の状況把握など市有林の管理については、NPO法人千曲の森に委託し定期的な

巡視を行っています。市有林は、市の財産という側面だけでなく、森林の持つ公益的機能を果たす上でも重要であり、「みんなで育てる協働の森づくり（植樹祭・育樹祭）」など森林・林業に対する市民啓発の場所としても利用されています。

また、県が仲人役となり企業やNPO法人等(里親)と市(里子)が里親契約を行い、里親から提供していただいた資金・労力により森林整備を行う、森林(もり)の里親促進事業により、千曲市では2件の契約が成立し整備が進んでいます。

太洋基礎工業株式会社

契約期間：平成23年10月24日～平成26年10月23日（3年間）

契約内容：資金提供150万円（50万円を3ヵ年提供）

事業内容：信濃路自然歩道聖高原ルート整備

NPO法人千曲の森

契約期間：平成24年10月1日～平成29年9月30日（5年間）

契約内容：労力提供

事業内容：市民等の協働により権平の市有林で森林整備を行い、市民の森林整備の理解と参加の促進を図る。森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業を活用。

平成25年11月23日（土）「権平の森」現地見学会と植樹作業実施。

- ・市有林巡視業務 594千円
- ・市有林支障木等伐採処理委託 2,000千円
- ・市有林整備事業委託 13,348千円（森鏡台山搬出間伐17.47ha→5.81ha）
搬出間伐委託、除伐等委託、枝打ち等保育作業委託、森林の里親森林整備委託
- ・市有林貸付料の徴収支払事務

3. 森林病虫害対策（H25 予算 36,967千円）

松くい虫による松枯れ被害はここ数年増加傾向にあり、森林の保全、景観維持の観点から防除対策は極めて重要です。千曲市では、対策として有人ヘリコプターによる空中薬剤散布、動力噴霧器による地上薬剤散布、被害木を伐倒し薫蒸処理する伐倒駆除を行っています。

空中薬剤散布は、重要な松林を守るための有効な対策の一つではありますが、人の健康に影響を及ぼすことがあってはならないという基本的な考えに基づき、「松くい虫防除のための農薬の空中散布の今後のあり方（H23.11月）」及びそれを受けて改正された「長野県防除実施基準（H24.4月）」に添い、説明会の開催や周知の徹底等のリスクコミュニケーションを行い、散布は早朝に行うとともに、風速の制限や生活圏から一定の距離を確保するなど、安全性に配慮した方法で周辺住民等の健康への影響のリスクを最大限低減しながら実施しています。その結果、本年も市内の方で健康被害を訴えた方はおらず、安全確認調査の結果は、すべての地点で農薬成分であるチアクロプリドは不検出でした。

また、伐倒駆除は被害量に応じ駆除を行ってきましたが、昨年・今年と被害量の急増により駆除が追いつかない状況です。昨年度は、当初570m³の予定に対し795m³の実績となり、今年度は当初1300m³の予定に対し、9月補正を合わせ2071m³を発注済みです。なお、集団的に枯れた場所については、次年度以降、林業事業者が県の補助を受けて実施する森林造成事業更新伐に対する嵩上げ補助を検討しています。

県内で問題となっているカシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害については、現在のところ千曲市では確認されておりません。昨年度、大池地区で一部集団的にカラマツの立ち枯れがみられ、調査の結果、カラマツヤツバキクイムシが原因と分かりました。間伐による残置材が原因とのことでしたが、被害の拡大はありません。本年6月には、羽尾地区の一部の森林で、広範囲にカラマツの葉が遠目に赤茶色に見える現象があり、調査の結果マイマイガ

の大量発生による食害と判明しました。成木は通常枯れることはありませんが、10年周期で大量発生し、2～3年継続する傾向があるようですので、今後注意深く監視してまいります。

松くい虫防除対策事業

- ・ **薬剤散布委託**(空中散布、地上散布) ⑦7,130千円(国庫補助3/4以内)

①空中散布

実施面積：125ha(更埴地区45ha、戸倉地区35ha、上山田地区45ha)

使用薬剤：エコワン3フロアブル(農林水産省登録第20897号)

散布量：300ℓ/ha(7.5倍希釈 薬剤40)

散布方法：有人ヘリコプター

②地上散布

実施面積：0.3ha(大字上山田城山地区)

使用薬剤：エコワン3フロアブル(農林水産省登録第20897号)

散布量：1,200ℓ/ha(200倍希釈 薬剤6ℓ)

散布方法：動力噴霧器(スパウダー)

- ・ **被害木伐倒駆除委託** 44,030千円(当初27,300+9月補正16,730)

被害木を伐採、玉切り後、現地に集積し、生分解シートで覆い、薬剤薫蒸処理する。

使用薬剤：NCS剤(カーバム剤)

松林健全化推進事業 916 m³(県単補助5/10以内)

保全松林緊急保護整備事業(衛生伐) 1,155 m³(国庫補助7/10以内)

- ・ **安全確認調査委託** ⑧2,468千円(国庫補助3/4以内) 農薬成分測定調査7箇所56検体

4. 緑化推進(H25予算1,985千円)

環境教育及び緑化推進事業として、「みんなで育てる協働の森づくり」を中心に事業を行っています。春の植樹祭、秋の育樹祭、園児がどんぐりから苗を育てるどんぐり大作戦など、林業関係団体、区長会連合会など市内各種団体、小学校等の協力による森林体験活動を主な内容とする事業です。こうした活動は、市民等に森林の持つ役割や機能の大切さを理解していただくとともに、林業への関心を高めるために重要なことですので、今後も継続的に取り組むことが必要です。

「みんなで育てる協働の森づくり」事業費

- ・ 苗木代、仮設トイレ借上げ、とん汁等材料費
- ・ 地拵え委託費、森林体験・木育活動等委託費、手直し作業委託費

植樹祭 5月11日(土) 午前9時～午後3時(大池市民の森)

市で用意した県産広葉樹1,300本の苗木を、運営協力団体の指導を受け植樹した。内300本は過去の植樹場所へ補植。486名参加。

昼食時にトン汁と間伐材で作られたカート缶のお茶を提供。昼食後、雨天のため大池自然の家で千曲市誕生10周年記念イベント「トミー & ピアニカ ソウル」の演奏を楽しみ、午後は小学生を中心に木育活動として、檜のまな板や桑材の箸などの木工作、小枝や木の実で飾り付けした母の日レター作りに取り組んだ。

育樹祭 10月12日(土) 午前9時30分～午後3時30分(大池市民の森)

春に植樹した県産広葉樹1,000本の苗木の雪害対策・下草刈の誤伐防止のため、添え木(支柱)を立てて、麻ひもで結び、上部にピンクテープを結ぶ作業を

運営協力団体の指導を受け実施した。220名参加。

昼食時にイノシシ汁と間伐材で作られたカート缶のお茶を提供。午後は市民の森感謝祭として、飾り棚や桑材の箸などの木工作、ポイントをクリアしながら森の中を進むアドベンチャーゲームや薪積み競争を楽しんだ。

どんぐり大作戦 10月30日(水) 午前9時30分～11時(五加保育園)

ポリポットの穴をふさぐために葉っぱを敷き、土を8割ほど入れる。真ん中にどんぐりを横にして置き、土をポットのふちまで平らに入れる。1人2ポットを作ったら育苗カゴに並べた。今回より来園者へのPR効果と園児の関心を継続する目的で、「どんぐり大作戦実施中！」の看板を設置した。園児145名参加。

また、11月6日(水)9:30から市林業研究グループの協力を得て、園児たちに篠竹を利用して作ったウグイス笛キットをプレゼントし、年長クラスの園児には作り方を指導した。

5. 野生鳥獣保護管理対策 (H25 予算 1,349 千円)

野生鳥獣保護法に基づき、県の鳥獣保護員と連携し市内の野生鳥獣の保護に努めています。

また、県からの委任事務として、特定の野生鳥獣の捕獲について許認可の事務を行っています。最近、山の手入れ不足や、荒廃農地の増加に伴い、野生鳥獣の出没や農作物への被害が深刻化しています。市有害鳥獣駆除対策協議会や市猟友会と連携しながら対応していますが、年々市民からの問い合わせや被害は増加しています。個体数が短期間に激増していて、個人や行政だけの対応では困難な面もあり、各地区で協議会を設置し、防護柵などの対策を講じている集落が増えてきました。山には昔から鳥獣等があり、生物多様性保全は森林の持つ公益的機能の代表的なものでもあります。人と動物が良い形で共存できるよう市民の意識を高めていくことが求められています。

・鳥獣出没通報対応

ハクビシン 4/8 収容、イノシシ 5/15 注意看板設置・9/6 はこ畏設置・9/9 くくり畏設置、ニホンジカ 12/13 収容、カモシカ 6/23 捕獲放獣・9/25 捕獲放獣、クマ 6/24 告知放送・8/28 告知放送・9/5 告知放送・9/6 中原地区捕獲放獣、タヌキ 9/5 捕獲放獣、サル 1件)
参考：有害鳥獣駆除対策協議会捕獲数 (12/17 発表) イノシシ 62、ハクビシン 18、ニホンジカ 18、タヌキ 20、クマ 1

・野生鳥獣の捕獲許可事務

市有害鳥獣駆除対策協議会 3 件

個体数調整 イノシシ 150、シカ 150 有害獣 ハクビシン 50、タヌキ 20

有害鳥 スズメ 2000、ヒヨドリ 1000、ムクドリ 800、カラス 400、トビ 400、キジバト 300、カカモモ 80

個人 2 件 (ハクビシン 8)

・カモシカの個体数調整 (2 月下旬予定) 480 千円

・ツキノワグマ対策 (注意看板の設置等)

6. 林道管理 (H25 予算 16,011 千円)

市が管理している林道は 41 路線・約 80km、作業道は 16 路線・約 17km あります。主要路線の維持管理はシルバー人材センターに委託し、清掃、草刈り、パトロールなどを行っています。冬季は通行止めとなりますが、市西部水道水源管理等のための不動滝線など一部の林道は除雪も実施しています。近年、台風や集中豪雨による災害が発生しており、今年も林道の一部崩落や法面崩落があり、大規模なものについては、国の災害復旧補助事業の認定を受け、復旧に向け準備を進めています。

今後も主要路網の管理を徹底するとともに、森林整備にあわせて作業路網の整備を進めていく必要があります。

- ・林道等維持管理業務委託（シルバー 4 名） ㊦4,311 千円
- ・林道更埴坂城線擁壁補修工事 16m/ブ`ロツク積 32 m³ ㊦1,743 千円
- ・林道作業道崩落土砂撤去重機借上げ 2,000 千円
- ・林道作業道修繕料 2,000 千円
- ・林道台帳の作成（仙石線・久露滝線） 1,360 千円
- ・林道作業道除草等作業委託 ㊦ 498 千円
- ・堰堤土砂撤去委託（治山） ㊦ 734 千円

H24 年度の繰越事業

- ・林道中原入支線法面復旧工事 ㊦2,625 千円
- ・林道不動滝線、佐野山線災害復旧工事 ㊦7,791 千円
- ・林道佐野山線舗装工事 735m 25,000 千円

H25 年度災害復旧事業（4 号補正 20,300 千円）

- ・林道冠着山線道路復旧、林道久露滝線法面復旧
- ・その他 19 路線の土砂崩落撤去、路面洗掘を重機借上げ等により対応（㊦4,337 千円）

7. 市民の森管理（H25 予算 6,965 千円）

都市型機能重視の生活様式が浸透した結果、自然への回帰や余暇利用による家族のふれあいの場を求める市民の声に応え、大池市民の森を整備してきました。自然の恵みの大切さ等を体験しながら学べる森林及び大池森林総合施設を管理しています。

- ・指定管理委託（株）森選組 4,000 千円
- ・施設修繕料 2,500 千円
- ・保守点検委託

8. 森のエネルギー推進（H25 予算 500 千円）

地球温暖化防止に寄与するため、木質バイオマス（ペレット・薪）を活用したストーブ、ボイラーの普及を促進し、里山資源の有効活用を図るものです。ペレットストーブ又はボイラーは県の森のエネルギー推進事業補助金（10/10 以内）を活用し、薪ストーブは市の単独事業として実施しています。

- ・設置補助金 ペレットストーブ又はボイラー（100,000 円） 3 台〔現在 4 台〕
薪ストーブ（10,000 円） 20 台〔現在 3 台〕

9. その他

- ・若宮、羽尾、須坂、上徳間、内川、千本柳財産区議会の運営事務、財産区有林の管理
- ・聖高原樺平保健休養地管理組合、千曲市猟友会の運営事務
- ・分収林整備事業（横手山地区丸太柵設置工事）260 千円